

あい あい 愛×I あいづっこ

～誰もが住みやすい街に～

愛媛大学法文学部福井ゼミナール（指導教員：福井秀樹）

代表者：大山凜

発表者：井上奈緒、大山凜

参加者：井上奈緒、大山凜、永井寧緒、藤谷洋智

梗概

あい あい
本論文では、地方都市会津若松における若者の定着を促進するために「愛×I あいづっこ～誰もが住みやすい街に～」のテーマに基づいた4つのプランを提案する。

第1章では、「地方都市における若者の定着」を定義し、会津若松の人口動態を分析する。その結果、進学や就職、結婚といったライフイベントを迎える世代に対する支援が重要であると結論づける。

第2章では、会津若松の現状を多角的に分析する。少子高齢化に伴う介護人材の不足や空き家問題、子育て支援のさらなる充実といった地域課題を挙げる。

第3章では、具体的なプロジェクト提案を述べる。まず、大型屋内施設「愛×I あいづっこパーク」の設置を提案する。すべての人が制約なく活動できる環境を整備するとともに、スマートシティ会津若松のブランドイメージを強化する。次に、補助金を支給することで家庭へのIoT導入を促進する「スマート育児サポートプロジェクト」を提案する。IoT家電を使用することで、家事時間が削減でき、親のプライベート時間を創出できるだけでなく、家電販売企業にとっても、そして地域環境全体にとってもメリットが生じる。

移住者支援としては、空き家をサテライトオフィスとして活用することで、市外や海外からの移住者へ職場を提供する「リノベサテライトあいづ」を提案する。この取り組みによって、観光や移住の需要が増え、地域経済の活性化にもつながる。また、海外から若者を介護者として雇用し、空き家を住居として提供する「グローバルあいづっこ育成プロジェクト」を提案する。技能実習生には、日本語や日本のマナーを学ぶ機会や情報共有できるプラットフォームを提供し、会津大学の学生を中心に、市民との交流の場を設ける。

本論文は、会津若松における若者の定着を促進するための多面的なアプローチが必要であることを強調しており、特に子育て支援や移住者支援が重要であることを示唆している。これらの取り組みにより、将来的な若者の地域定着と地域活性化が期待できる。

目次

第1章 テーマ定義.....	3
第2章 現状分析	3
第1節 人口動態.....	3
第2節 介護人材の不足.....	5
第3節 在留外国人数の増加	5
第4節 空き家数.....	7
第5節 子育て支援の需要	8
第6節 子育てにおける IoT 技術の活用例	11
第7節 スマートシティ会津若松の取り組み.....	12
第3章 プロジェクト提案.....	13
第1節 提案① 大型屋内施設【愛× I あいづっこパーク】	13
第2節 提案② 補助金支援【スマート育児サポートプロジェクト】	19
第3節 提案③ 空き家サテライトオフィス【リノベサテライトあいづ】	20
第4節 提案④ 技能実習生支援【グローバルあいづっこ育成プロジェクト】	23
第4章 終わりに	24
参考文献	26

第1章 テーマ定義

「地方都市における若者の定着」とは、若者が会津若松に住み続けることで地域社会に深く根付くことを指す。また、会津若松に在住する若者の人口を増加させることもこの定義に含まれる。したがって、定住支援による人口流出の抑制と移住支援による人口流入の促進という2つのアプローチが必要であると考えた。

会津若松の人口動態に関するデータ、『会津若松市第7次総合計画（2021）』によると、「15～19歳」の区分から「20～24歳」の区分に移行する際に、顕著な人口減少が見られる。この移行期は社会動態全体の約60%以上を占めており、今後も同様の傾向が予測される（表1）。このことから、私たちが提案するプランは、進学、就職、結婚といったライフイベントを迎える年代である15歳から30歳を対象とすることが適切であると判断した。

表1 会津若松の社会動態の推計値〔5年毎の人口の増減〕

	2015(H27)	2020(H32)	2025(H37)
「総数」の増減(A)	▲2,031人	▲1,296人	▲1,116人
「15-19歳」の区分から「20-24歳」の区分に移行する際の増減(B)	▲1,312人	▲877人	▲775人
(B)／(A)	65%	68%	69%

出典：会津若松市企画調整課「会津若松市第7次総合計画」

第2章 現状分析

第1節 人口動態

『会津若松市の市勢統計データ（2024）』によると、会津若松の総人口は年々減少しており、人口ピークであった2006年と比較すると20,000人近く減少している（図1）。特に15～19歳、20～25歳、26～29歳といった若者世代においては、人口の減少が顕著である（図2）。

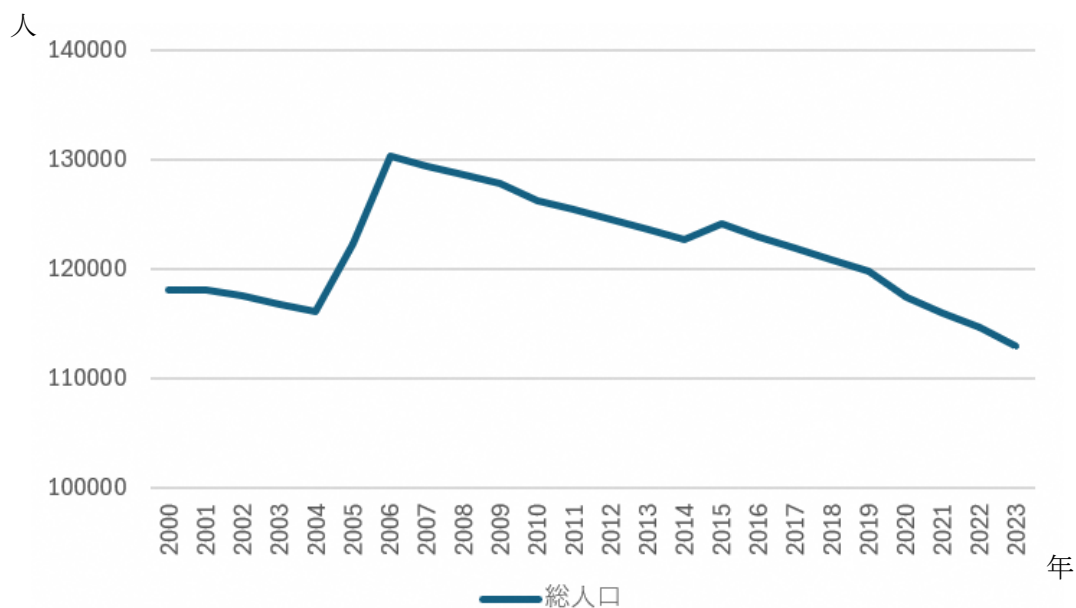


図 1 会津若松の人口推移

出典：会津若松市情報統計課「会津若松市の市勢統計データ人口・世帯数の推移」をもとに著者作成

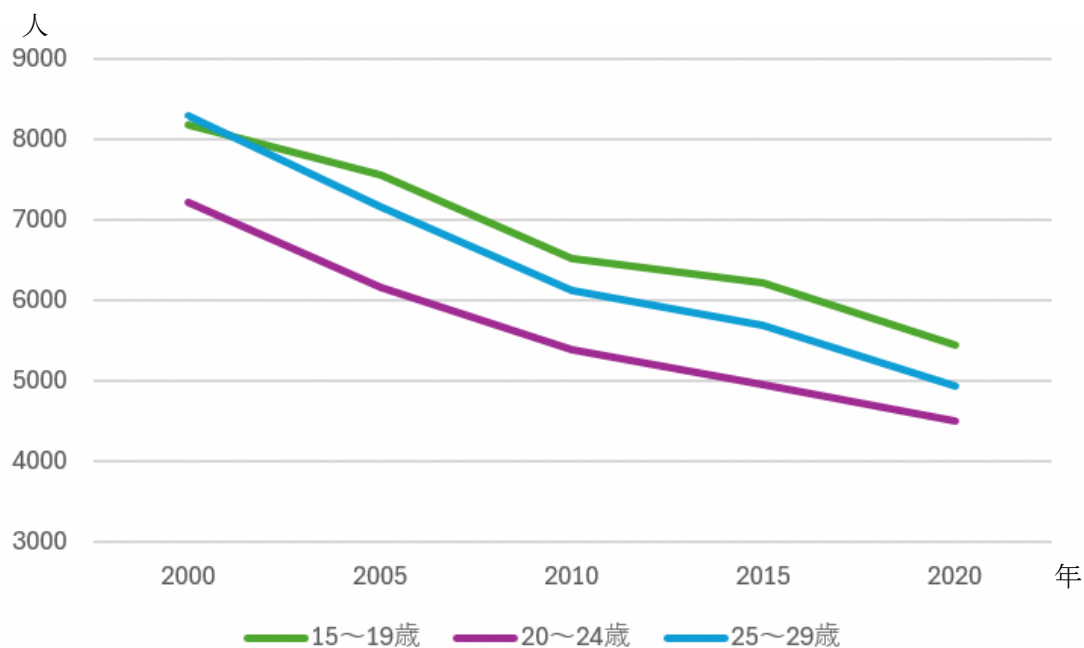


図 2 会津若松の年齢別人口推移

出典：会津若松市情報統計課「会津若松市の市勢統計データ年齢5歳階級別人口及び3区分別人口の推移」をもとに著者作成

また、『JMAP 地域情報医療システム』によると、2020年時点で、会津若松の65歳以上の高齢者が占める割合は全体の31.40%であり、全国平均の28.60%を上回っている。高齢者の割合は、今後さらに大きくなることが予想され、2050年の将来推計では、65歳以上の高齢者が占める割合が約45%になっている（図3）。

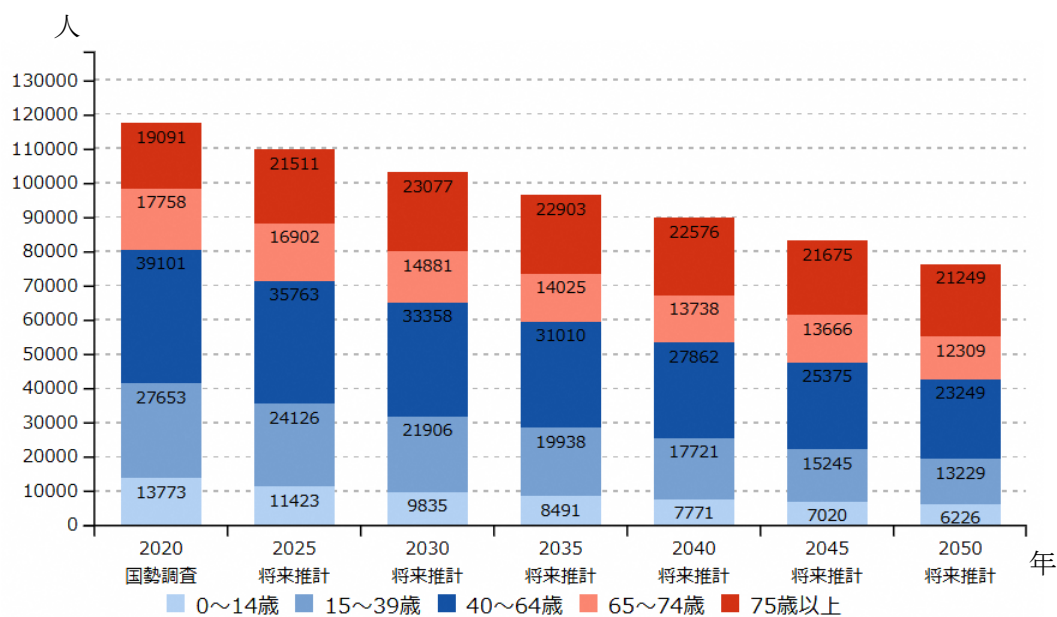


図 3 会津若松の将来推計人口

出典：JMAP 地域情報医療システム（日本医師会）「福島県会津若松市」

第2節 介護人材の不足

高齢化に伴って介護の需要が増えるにもかかわらず、第1章で述べたように、市外へ転出していく若者が多い。『JMAP 地域情報医療システム』によると、会津若松の75歳以上1千人あたりの介護職員数は、60.41人であり、全国平均の68.18人を下回っている（図4）。これは、会津若松における介護人材の不足を示しており、迅速な人材確保の施策が求められる。

職種別の人員数 ②	職員数			75歳以上1千人あたり 人員数
	会津若松市	会津若松市	全国平均	
介護職員（常勤換算人数）	1,153.38	60.41	68.18	

図 4 会津若松の介護職員数

出典：JMAP 地域情報医療システム（日本医師会）「福島県会津若松市」

第3節 在留外国人数の増加

『会津若松市の外国人住民数（令和6年10月1日現在）』を見ると、会津若松の在留外国人数は、コロナ終息後から増加していることが分かる（図5）。また、出入国在留管理庁の『令和5年6月末現在における在留外国人数について』より、その在留外国人のうち、永住者・技能実

習・技術、人文知識、国際業務という地位をもって在留する人が半分を占めていることが推測できる（図 6）。

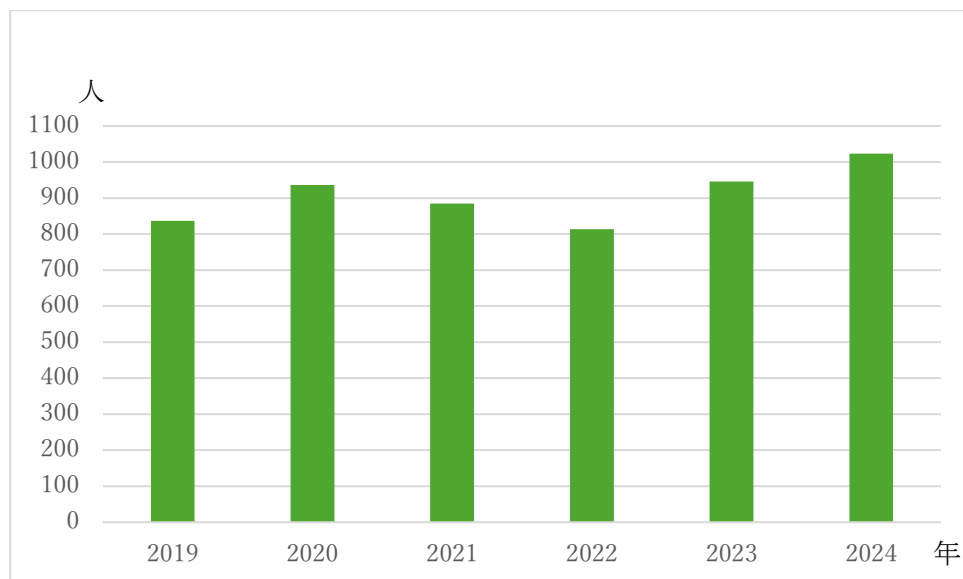


図 5 会津若松における在留外国人数の推移（各年 4 月 1 日時点）

出典：会津若松市情報統計課「会津若松市の外国人住民数（令和 6 年 10 月 1 日現在）」をもとに著者作成

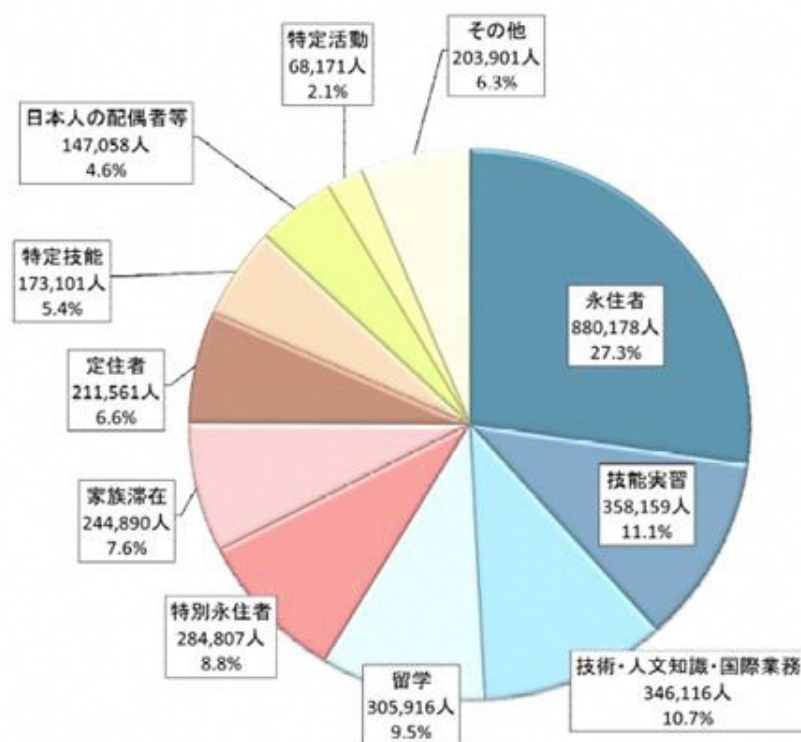


図 6 日本における在留外国人の在留資格

出典：出入国在留管理庁「令和 5 年 6 月末現在における在留外国人数について」

第4節 空き家数

『第2期会津若松市空き家等対策計画（2021）』によると、令和2年9月の時点でおよそ1600件の空き家が存在している（図7）。さらに、この空き家について、外観目視による現地調査を下記の判定基準（表2）に基づき実施したところ、会津若松に存在する空き家の中には、わずかな手入を施すことで即座に居住可能となる空き家が多数あることが分かったとのことである（図8）。これらの空き家を再生させ、有効に活用する新たな施策が求められる。

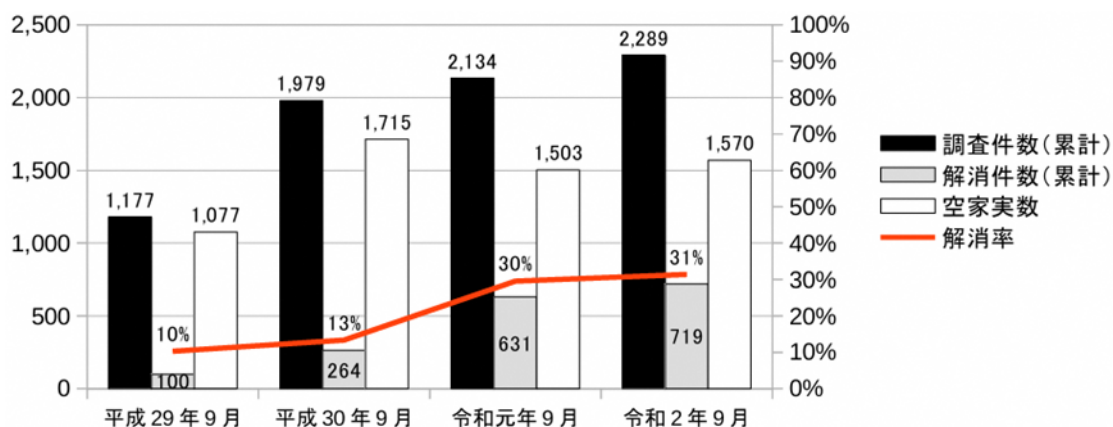


図7 空き家調査件数および解消件数、解消率等

出典：会津若松市危機管理課「第2期会津若松市空き家等対策計画」

表2 判定基準

判断基準A	適正に管理されている空き家（そのまま利用可能な空き家）。
判断基準B	ある程度管理されており、一部修繕により居住可能。
判断基準C	周囲へ影響を及ぼす可能性がある。修繕等により改善可能。 窓ガラス等に破損あり。不審者や野生動物が侵入可能な状態。 ゴミや廃材が堆積し、不法投棄を誘発する恐れがある状態。
判断基準D	周囲へ影響を及ぼす可能性あり。解体でのみ修繕可能。

出典：会津若松市危機管理課「第2期会津若松市空き家等対策計画」

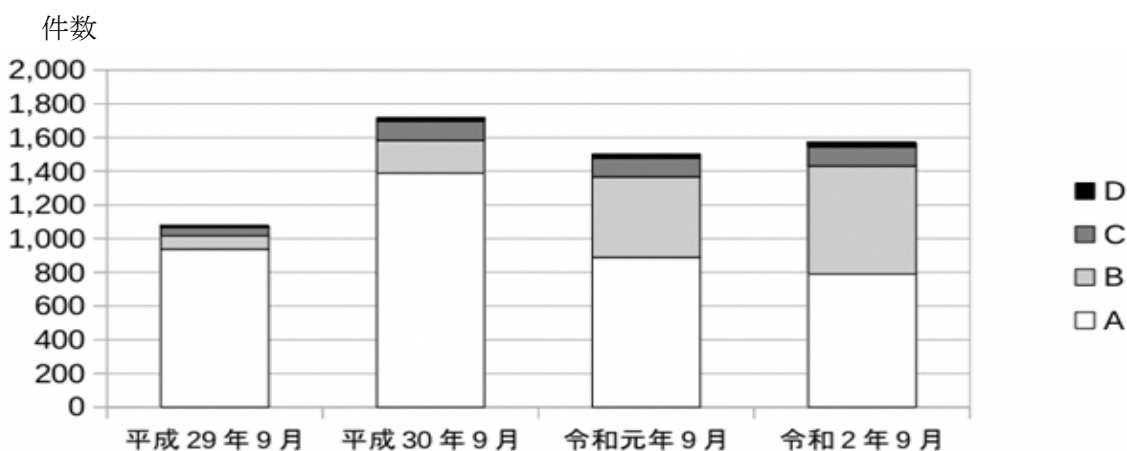


図8 空き家状態判別結果

出典：会津若松市危機管理課「第2期会津若松市空家等対策計画」

第5節 子育て支援の需要

『会津若松市第7次総合計画（2021）』によると、市の施策における満足度及び重視すべき施策に関する調査結果において、「子育てしやすいまちをつくる」施策に対する満足度は比較的高いものの、同時に重視すべき施策としても強く求められている（図9）。このことから、市民は会津若松に対して、現在の取組を継続しつつ、さらに手厚い支援を求めていることが分かる。

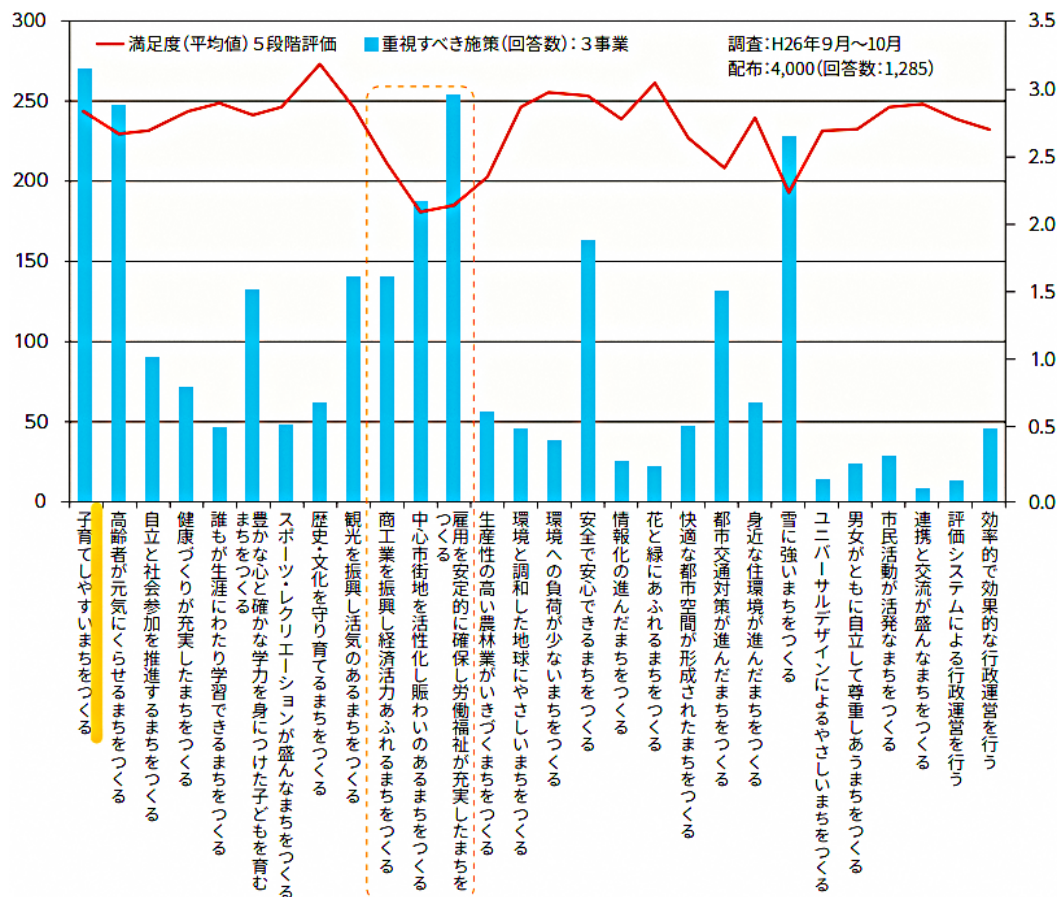


図9 各種施策の満足度と重点施策

出典：会津若松市企画調整課「会津若松市第7次総合計画」

会津若松は内陸盆地特有の気候で、夏季は高温の日が続き、冬季は降雪量が多い。そのため、屋外での活動を制限されることが多く、地域住民にとって屋内で遊べる場所の重要性が増している。しかし、現在の会津若松には室内娯楽施設が十分に整備されていない。

『令和5年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の報告（2024）』によると、市民の声として「天候に左右されない屋内施設」や「小学生でものびのび遊べる施設」の必要性が強く訴えられている。具体的には「郡山市のベップキッズこおりやま」や「喜多方市のめぐぷらざ」といった他地域の成功事例が挙げられている。このような施設が整備される

ことによって、子どもの遊び場が確保できると同時に、親の育児負担も軽減できることが期待される。

また、『第5次福島県障がい者計画（2022）』によると、福島県における18歳未満の手帳交付者数は、令和3年4月1日（精神保健福祉手帳は令和3年3月31日）時点で、身体障害者手帳1,066人、療育手帳4,224人、精神保健福祉手帳439人となっており、療育手帳所持者数は増加傾向にあることが分かる（表3）。また、県内の特別支援学級（自閉症・精神障害）に在籍している児童・生徒は、令和元年5月1日時点で1,724人であり、平成29年5月1日時点に比べ、約1.3倍に増加している。

『令和5年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の報告（2024）』では、市民の意見として「障がい者向けの休憩スペース」や「障がい者対応施設」を求める声が多数寄せられている。また、『会津若松市令和2年度ユニバーサルデザインに関する意識調査報告書（2021）』によると、「バリアフリーの環境」や「音声案内」、「センサー式蛇口」などユニバーサルデザインの導入が求められていることが分かる。

表3 年齢別療育手帳所持者数

年齢階層	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
18歳未満	3,789	3,857	3,937	4,021	4,091	4,224
18歳以上	13,299	13,616	13,991	14,363	14,727	15,094
総数	17,088	17,473	17,928	18,384	18,818	19,318

出典：福島県障がい福祉課「第5次福島県障がい者計画」

さらに、『令和5年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の報告（2024）』によると、「仕事の時間」と「家事（育児）の時間」、「プライベートの生活時間」の優先度の希望は、父親、母親ともに、「仕事・家事（育児）・プライベートをバランスよく行いたい」が7割を超えている（図10,11）。

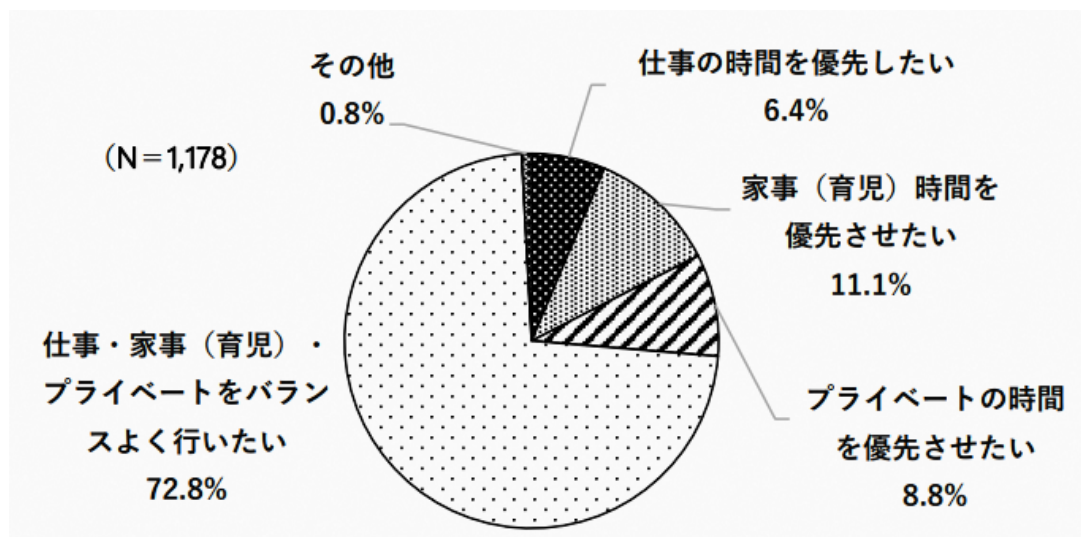


図 10 (父親)「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の希望優先度
出典：会津若松市こども家庭課「令和 5 年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ 調査の報告」

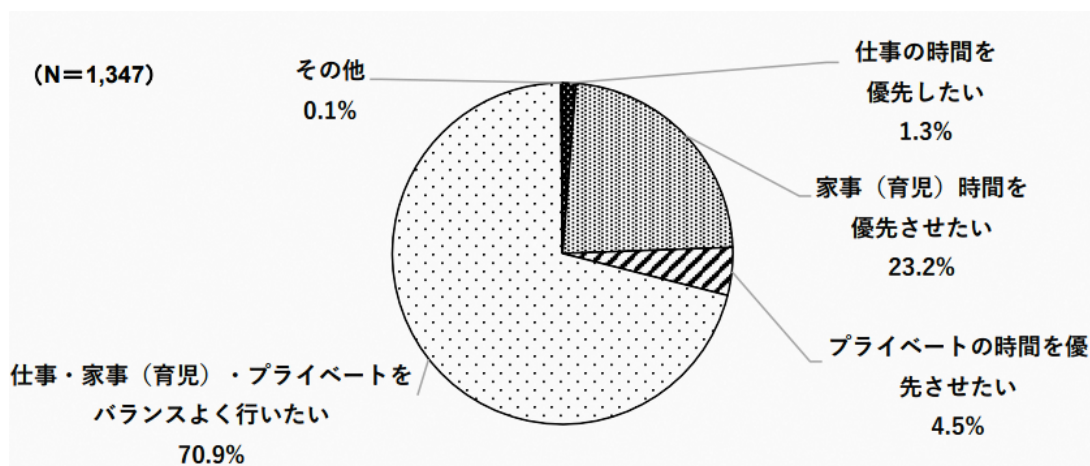


図 11 (母親)「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」の希望優先度
出典：会津若松市こども家庭課「令和 5 年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ 調査の報告」

しかし実際には、父親は「仕事の時間」を、母親は「家事（育児）の時間」を優先している人が最も多く、両方をバランスよく行えていると答えたのは全体の 2 割程度である（図 12, 13）。この結果は、理想と現実のギャップを明らかにしており、育児と仕事の両立における具体的な課題を浮き彫りにしている。

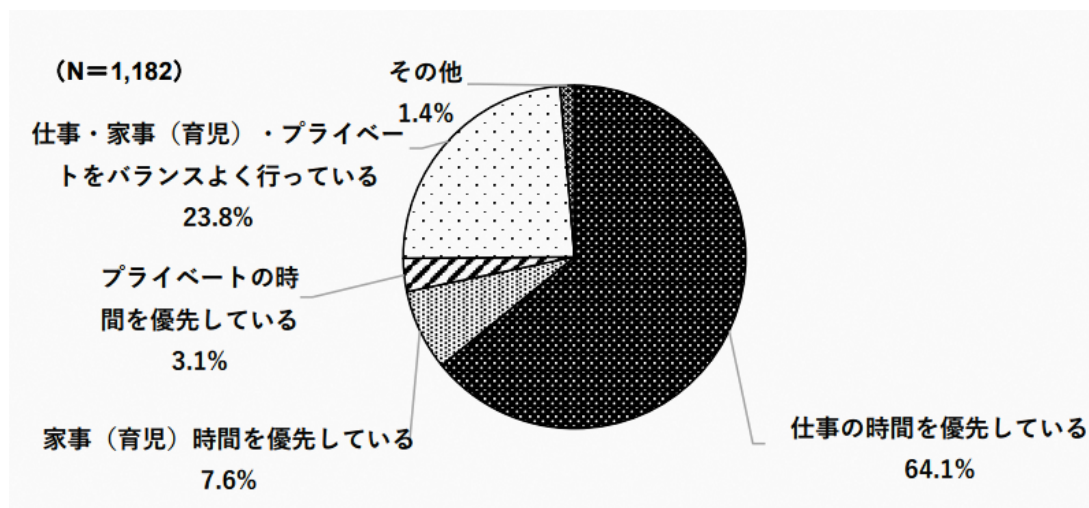


図 12 (父親)「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」現実優先度
出典：会津若松市こども家庭課「令和 5 年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ 調査の報告」

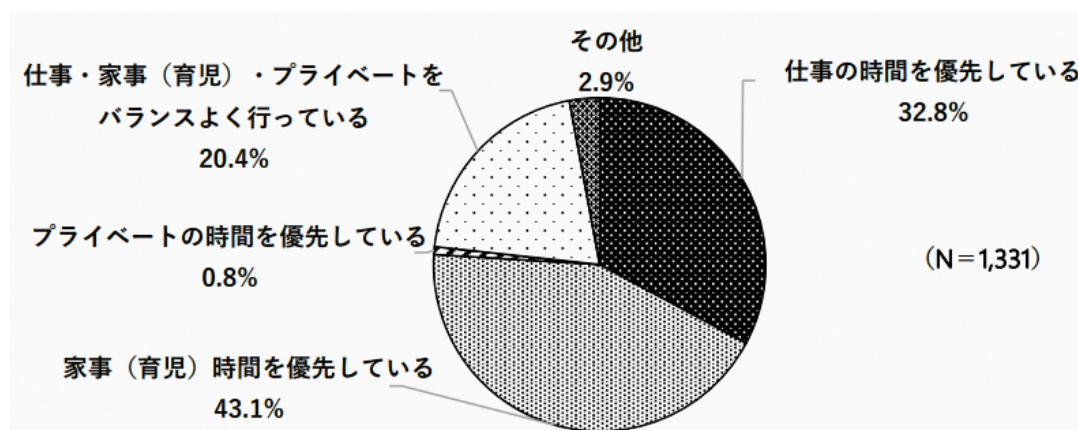


図 13 (母親)「仕事の時間」と「家事（育児）・プライベートの生活時間」現実優先度
出典：会津若松市こども家庭課「令和 5 年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ 調査の報告」

第 6 節 子育てにおける IoT 技術の活用例

現在、IoT（Internet of Things）技術は急速に発展しており、あらゆるモノとインターネットを繋げることで、私たちの生活を豊かにしている。子育てにおいても、子どもの状態把握や健康管理に IoT 技術を用いることで、スムーズに安心して育児を行うことが可能になっている。

具体的には、赤ちゃんの動きや泣き声、部屋の温度や湿度をリアルタイムで確認できたり、毛布で顔が覆われないようにするための防止アラートが鳴ったりする「スマートベビーモニター（図 14）」がある。ベビーモニターを利用することで、他の家事と並行しながら、声掛けをしたり、職場から子どもの様子を見ることができたりする。これにより、祖父母やベビーシッターに子どもを預ける際の抵抗感が軽減され、安心して預けられるようになる。

また、家電製品においては、ロボット掃除機やロボット洗濯機を導入することで、遠隔操作で掃除や洗濯を行うことが可能になり、家事時間を大幅に短縮できる。さらに、IoT 冷蔵庫は運転状況をモニタリングできたり、ドアを開ける際に自動で撮影される冷蔵庫内の写真を見ながら、買い物ができたりする。

これらの IoT 技術を用いることで、家事（育児）時間を削減でき、保護者のニーズである「仕事・家事（育児）をしながら自由時間を創出する」ことが可能になる。

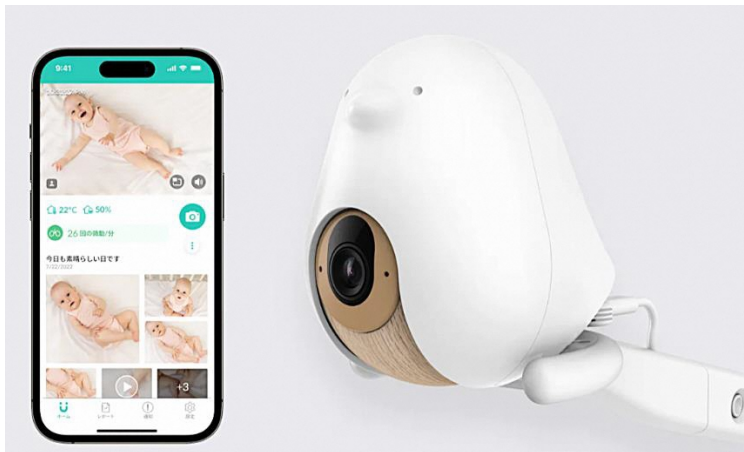


図 14 スマートベビーモニター

出典：CuboAi 「CuboAi Plus スマートベビーモニター」

しかし、これらの IoT 家電は初期費用に加えて、メンテナンス費用やサブスクリプション費用などのランニングコストがかかるというデメリットも存在する。これらのコストが、導入を検討する際の障壁となっている。

第7節 スマートシティ会津若松の取り組み

会津若松は、デジタル技術を活用して、地域全体を元気にするスマートシティを目指している。なかでも、「会津若松^{ぶらす}＋」は会津若松市民に必要な情報やサービスを届ける地域情報ポータルサイトとして、行政や民間のスマートシティ関連サービスと連携している。各サービスを同一 ID で利用することで、行政手続き申請やオンライン診療、地域通貨決済などをスムーズに行うことができる。

しかし、実際の利用状況を見てみると、『会津若松市の地域情報化に関するアンケート結果（2020）』によれば、会津若松^{ぶらす}＋を利用しているのは全体のわずか 13%程度で、約 34%の人が存在自体を知らないことが分かる（図 15）。このことから、会津若松はサイトの機能を向上さ

せ、周知活動を強化することで、利用を促進する必要があることが分かる。

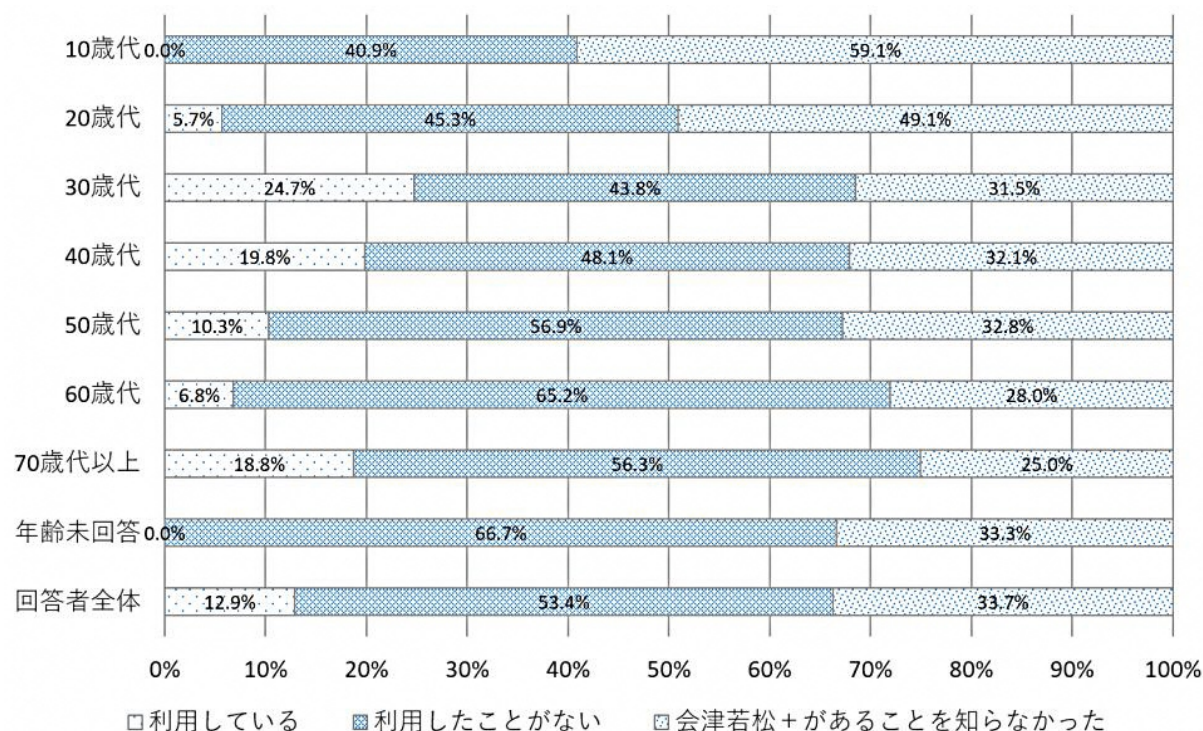


図 15 会津若松+の利用の有無について

出典：会津若松市情報統計課「会津若松市の地域情報化に関するアンケート結果」

以上の現状分析より、会津若松市が今後注力すべき課題は以下の通りに整理される。

課題
課題① 少子高齢化による介護人材の不足
課題② 在留外国人の増加
課題③ 空き家の再利用
課題④ 子育て支援のさらなる充実
課題⑤ スマートシティ会津若松の認識普及

第3章 プロジェクト提案

第1節 提案① 大型屋内施設【愛×I あいづっこパーク】

第2章現状分析より、「悪天候でも遊べる屋内施設の設置」、「ユニバーサルデザインの導入」、「ICT技術の活用」に注目すべきだと考えた。

そこで提案するのが、大型屋内施設「愛×I あいづっこパーク」の設置である。施設内には多様なアクティビティエリアを設け、ユニバーサルデザインを採用することですべての子どもが利

用しやすい「愛」のあふれる設計をする。さらに、会津若松の強みである「I」CTを活用した情報管理システムやインタラクティブな体験を提供する。それによって、会津若松の子どもたち「あいづっこ」にとって、学びと遊びが融合した魅力的な施設の実現を目指す。

入場料金は住所・年齢を問わず無料とする。建設に多額な費用がかかるうえ、入場料を設定しないため直接的な高収益は期待できないが、利用者が増加することで会津若松市をインクルーシブな街として印象づけることが可能になる。その結果、地域の魅力が高まり、さらなる人口流入の促進が期待できる。

また、指定管理者制度を導入し、民間の知恵を積極的に活用する。具体的な参考例として、愛媛県西予市にある道の駅「どんぶり館（図16）」と、その向かいにある公園「西予ちぬやパーク（図17）」を挙げる。この道の駅は、レストラン営業やジェラート販売に加え、産直市としての機能も果たしている。さらに、道の駅の指定管理者は公園の指定管理者でもあり、休日には家族連れが公園で遊びながら道の駅で食事や買い物を楽しむ様子が見受けられ、相乗効果が生じている。この成功事例と同様に、大型屋内施設「愛×I あいづっこパーク」の管理運営を民間企業に委託することで、より柔軟な運営が実現し、地域経済の活性化が期待できる。



図 16 どんぶり館

出典：株式会社大建設計工務「設計実績 道の駅どんぶり館」



図 17 西予ちぬやパーク

出典：西予市「【報告】西予ちぬやパーク情報」

設備については、目的に応じていくつかのスペースに分けて設置をする（表 4）。アスレチックスペースは、屋外の公園で遊ぶ際と同様に、大型遊具を設置し、走り回れる広さを確保する。また、読書スペース、工作スペース、音楽スペースには多様な道具を揃え、学びの場としての機能も持たせる。特に工作スペースでは、週末に科学工作教室を開催し、紙コップや割りばし、空き箱などを使用して、親子で簡単にできる工作を楽しむ機会を提供する。

ベビースペースは、乳幼児が安全に遊んだり、寝たりできるように床をマットレス仕様にす。また、月に数回、親子交流会や育児教室を実施する。多胎児や発達障がいを持つ子どもの親同士が交流できる場を設けることで、同じ悩みを持つ親が相談し合える環境を整える。ロッカーや多機能トイレ、おむつ交換台、授乳室など、子育て中に必須となる設備も完備する。さらに、カームダウンスペースを設置し、感覚過敏や発達障がいをもつ人が安心して気持ちを落ち着けることができる空間を確保する。

直売所では、地元農家が生産した新鮮な野菜や、指定管理者となった企業が提供する商品などを販売する。この直売所では、購入した弁当や惣菜を飲食することが可能であり、会津若松の特産品を楽しむ場としての役割を果たす。

また、障がいをもつ人への就労支援として、施設内にパン屋やお菓子工房を設ける。この提案をするにあたり、愛媛県四国中央市で活動している NPO 法人^{いまじん}今人倶楽部四国中央市就労支援ネットワークの取り組みを参考にした。障がいをもつ人々に働く場を提供できるとともに、人が集まる大型施設での販売・運営を自ら行うことで、多くの人たちと触れ合う機会ができ、楽しく働けるのではないかと考えた。そして、会津若松の良さをさらに活かすために地元農家と連携し、パンやお菓子に会津若松の特産品を用いることで、積極的なプロモーションを行う。具体的には、

会津若松での生産が盛んである、モモやリンゴなどのフルーツをたくさん使用したパンやお菓子を目玉商品として販売する案がある。

表 4 設備

アスレチックスペース	体を動かして遊ぶ
読書スペース	静かに遊ぶ
工作スペース	工作をする、科学を学ぶ（定期的に科学工作教室実施）
音楽スペース	演奏をする、音楽を学ぶ
ベビースペース	0～2 歳児が遊ぶ（定期的に交流会や育児教室実施）
ロッカースペース	育児用バッグが入る大きいサイズ
トイレ	多機能トイレ、おむつ交換台、授乳室
カームダウンスペース	障がい者が気持ちを落ち着ける
直売所	野菜や弁当、惣菜の販売
パン屋・お菓子工房	障がい者によるパン・お菓子の販売

これに加えて、ユニバーサルデザインの観点から、自動ドアやスロープ、手すり、点字、ピクトグラムなどを導入する。また、障がい者対応の遊具も設置する。具体的には、東京都世田谷区「都立砧公園^{きぬた}」にある、体幹が弱い子供でも安全に使用できる、背もたれと安全バーで体をしっかりと固定できるブランコ（図 18 左）や寝転がったり友だちと一緒に乗ったりできる大型ブランコ（図 18 右）、2 人並んで座れる広い座面があるシーソー（図 19）などを設置する。

また、ユニバーサル自動販売機（図 20）も導入する。低位置に商品選択ボタンが配置されていたり、視認性の高いイエローオレンジを用いたりすることで、誰もが分け隔てなく安心して使用できる。加えて、車いす使用者や白杖使用者が通行するときに開放時間を延長したり、スピーカーで誘導アナウンスを再生したりするミライロドア（図 21）や、手をかざすだけで水を出せるセンサー式蛇口などを設置することで、より多くの人々に配慮した施設を実現する。



図 18 ユニバーサルデザイン遊具 ブランコ

出典：パラサポ WEB「砦公園にある未来の公園『みんなのひろば』全貌公開！【後編】

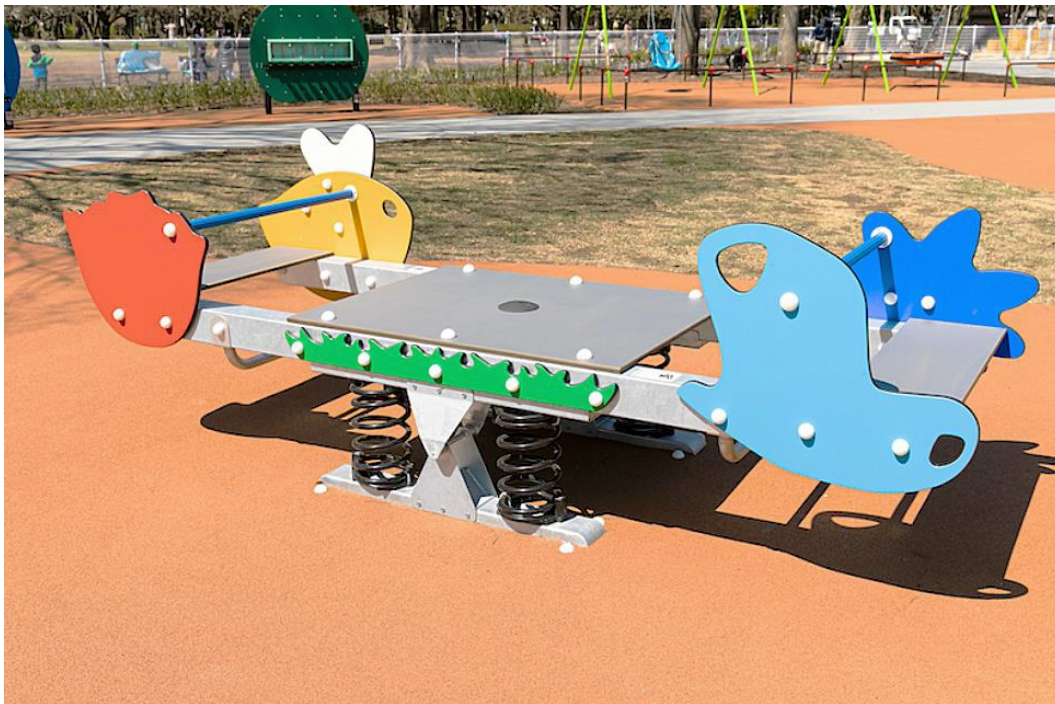


図 19 ユニバーサルデザイン遊具 シーソー

出典：パラサポ WEB「砦公園にある未来の公園『みんなのひろば』全貌公開！【後編】



図 20 ユニバーサルデザイン自動販売機

出典：コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社「ユニバーサル自動販売機」



図 21 ミライロドア

出典：株式会社ミライロ「国内初！すべての人にやさしい新世代の自動ドア「ミライロドア」を開発 ～障害のある方が安心して通行できる自動ドアの実現へ～」

予約や受付、情報管理などは、会津若松^{ぶら}と連携した専用アプリで行う。このアプリを利用して Web 予約を行い、無人受付で QR コードをかざすだけで入場可能にする。また、入場前に混雑状況をリアルタイムで確認したり、アプリ内で Web アンケートを実施したりすることで、利用者の満足度を向上させる。

さらに、施設内には見守りカメラを設置し、親同士が会話をしているときや兄弟が別々に遊んでいるときに、スマートフォンで子どもの様子を確認できるようにする。加えて、VR（仮想現実）や AR（拡張現実）などの最新技術を用いたデジタル遊びも楽しむことができるようにする。具体的には、東京都武蔵村山市「ファンタジーキッズリゾート武蔵村山」で導入されている、テーブルに映し出された映像の中で動き回る金魚を捕まえるデジタルキャッチや、砂を掘ると川が映し出されたり山をつくと火山が噴火する映像が映し出されたりするデジタル砂場などが挙げられる。

このように屋内娯楽施設にユニバーサルデザインと ICT を掛け合わせることで、親にとっては公平性と利便性を兼ね備えた魅力的な施設となり、子どもにとっては遊びと学びが同時に体験できるワクワクする施設となる。これにより、子育て世帯は会津若松で育児をしたいと思い、その

子どもたちも将来、親になった際に会津若松で子育てをしたいと思うようになる。すなわち、このプロジェクトによって、会津若松における若者の定着が期待できる。

第2節 提案② 補助金支援【スマート育児サポートプロジェクト】

第2章現状分析より、子育て家庭にIoT家電を活用することで、家事（育児）の時間を削減し、親のプライベート時間を増やすことが可能になると分かった。しかし、IoT家電の導入には、初期費用やランニングコストといった経済的な障壁が存在することも明らかとなっている。

そこで提案するのが、会津若松に在住する子育て家庭（18歳未満の子どもを持つ家庭）を対象に、IoT家電購入時の補助金支援を通じて、育児支援を強化する「スマート育児サポートプロジェクト」の導入である。

手続き方法としては、まずIoT家電購入前に、「会津若松^{ぶらす}＋」と連携した専用アプリで事前申請を行う。このアプリでは、地元の家電量販店やオンラインショップで販売中のIoT家電を確認することができ、その中から購入したいIoT家電を選択し、審査を受ける。市の担当者が申請内容を確認し、承認を得た後に家電を購入できるようになる。

補助金の割合は、IoT家電購入価格の20～30％程度とし、購入後にアプリを通じて領収書を提出することで、補助金の支給を受ける（図22）。補助金は、現金または会津コインでの受け取りを可能にする。



図 22 手続き方法（著者作成）

また、このアプリ内では、IoT家電の効果的な使い方や選び方、実際の使用者によるレビューなどの情報を提供し、家庭が納得した上での購入をサポートする。さらに、利用者の購買履歴をもとにパーソナライズされた商品提案がされ、各家庭のニーズに合ったIoT家電を購入できるようにする。このように、アプリの利用者にとっては、割引価格でのIoT家電の購入やスムーズな情報収集が可能になるというメリットがある。

一方、市はこのアプリを通じて、IoT家電の購買履歴や利用者からのフィードバックを収集することで、売上数や顧客情報、使用者の満足度に関するビッグデータを取得できる。これらのデータを分析することで、IoT家電の普及率を推測することが可能となるだけでなく、家電販売企

業に対して顧客のニーズや消費傾向に関する情報を提供することができる。そのデータをもとに企業はクーポンや特典の提供が可能になる。このような情報の活用は、消費者の要望に基づいたマーケティング戦略の展開を促進し、地域経済の活性化や地域住民の満足度向上にもつながる。

また、購入された IoT 家電のエネルギー使用状況を自治体がモニタリングできるようにする。そうすることで、最もエネルギーを消費している機器や時間帯を特定し、時間や季節ごとの電力需要を把握することで、電力の供給計画を立てることが可能になる。

さらに、エネルギー使用状況は家庭でも確認できるようにし、省エネルギー意識の醸成を図る。その際に、エネルギー節約方法のアドバイスを提供する。具体的には、エネルギー効率の高い家電を新しく購入する家庭には、最大 30% の補助金を支給したり、エコ家電の比較や推奨商品リストなどを提供したりする。

これに加えて、IoT 家電や省エネ家電を使用し、エコなライフスタイルを実践している家庭を表彰するコンテストを行う。エントリーはアプリ上で行い、家族構成や自身が使用している家電とともに、エネルギー使用量やエコなライフスタイル実現のためのこだわりなどを写真付きで入力する。審査は、市とこの取り組みに加盟している家電量販店が行う。受賞した家庭には、IoT 家電購入時に利用できるクーポンを支給する。このコンテストの開催によって、さらなる地域全体の環境意識の向上が期待でき、IoT 家電の導入が浸透する。

このような取り組みを行うことで、利用者、企業、自治体の三者がともに利益を得ることができる「三方よし社会」の実現につながる（図 23）。

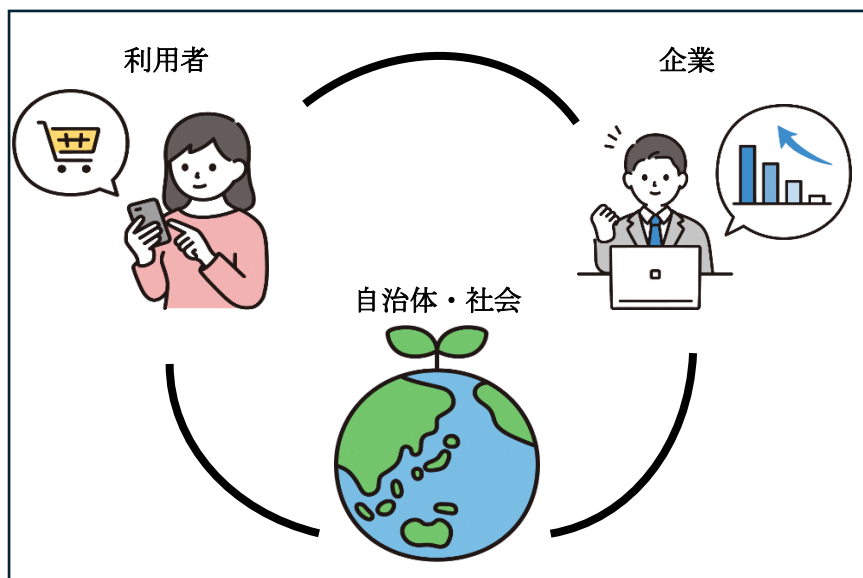


図 23 三方よし社会（著者作成）

第3節 提案③ 空き家サテライトオフィス【リノベサテライトあいづ】

第2章現状分析より、会津若松における在留外国人の増加と、利用可能な空き家の多さが明らかになった。そこで提案するのが、空き家を活用したサテライトオフィスに外国人移住者を呼び込む取り組み「リノベサテライトあいづ」である。

空き家をサテライトオフィスとして活用する背景には、コロナ禍の影響で出社することが困難になり、テレワークが普及したことがある。このような変化に伴い、地理的な制約を受けずに働くことができる環境が求められるようになった。サテライトオフィスの設置には、支店や支社を設けるよりも低コストで運営ができる点やBCP（事業継続計画）対策としての利点がある。また、会津若松にはすでにスマートシティ AiCT が存在し、ICT 技術が整備されているため、サテライトオフィスを設置しやすい環境が整っている。さらに、市内に多数存在する空き家を利用することでコストをより一層抑えることが可能となる。

サテライトオフィスの誘致に成功したのが、徳島県神山町（図 24）である。このサテライトオフィスは築 90 年の古民家を改修し、デジタルコンテンツサービス企画や映像メタデータ運用を担う株式会社プラットイーズが 2013 年に設立した。代表の隅田徹氏は、サテライトオフィスによって得た最大のメリットとして、社員が IT ツールを積極的に活用するようになり、業務の効率が飛躍的に向上した点を挙げている。オンライン会議の導入により、移動時間や議論の停滞時間など無駄な時間を削減できる。また、都会と異なるコミュニティの構築により、地元住民との交流を通じて、地域社会に生きていることを実感できるという。

この事例から、築年数の古い建物でもスタイリッシュなサテライトオフィスにリノベーションすることが可能であることが示唆される。さらに、地方にサテライトオフィスを設けることで、社員は自分のライフスタイルに合った職場環境を選択でき、その結果として社員の満足度向上が期待できる。



図 24-1 神山町サテライトオフィス 外観（福井ゼミ撮影）

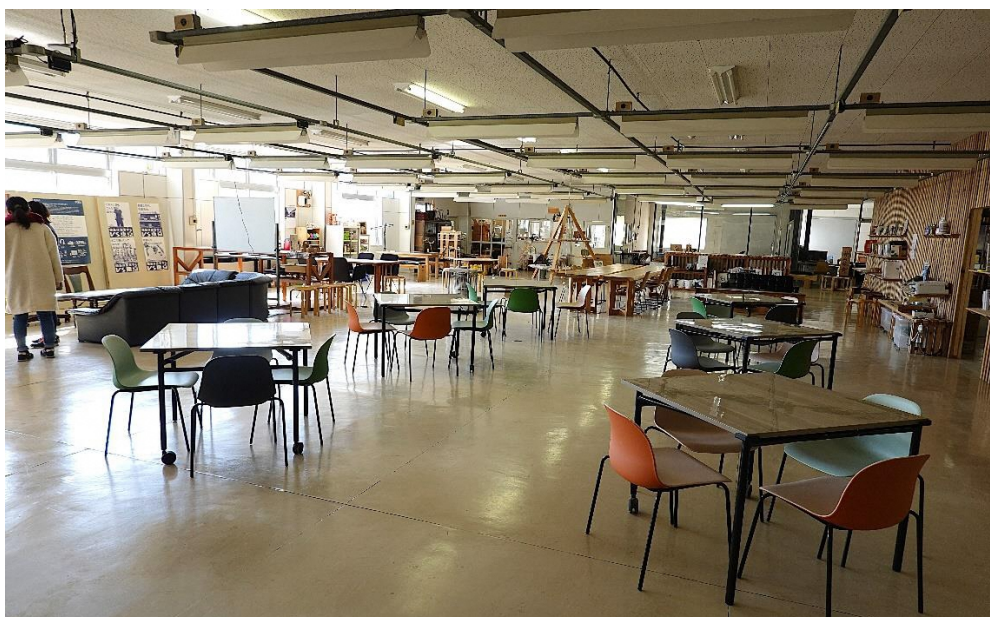


図 24-2 神山町サテライトオフィス 内観 (福井ゼミ撮影)

サテライトオフィスの導入には、企業側だけでなく自治体側にも多くのメリットが存在する(図 25)。具体的には、サテライトオフィスの設置により新たに働く人々が移住してくることで、人口減少を食い止めることが可能になる。特に、IT 企業のサテライトオフィスの設置により、若年層の雇用機会が増加し、会津若松での生活や働き方に選択肢が増えることで、若者の定住が促進される。

また、会津若松には豊富な観光資源があり、日本文化を体感できる街であることから、外国人移住者にとっての魅力も大きい。「自然や文化を感じながら仕事ができる」というコンセプトのもと、現役世代の外国人移住者を呼び込めば、会津若松への人口流入をさらに促すことができると考えられる。

このように、国内外からの移住者が増加することで、地域としての知名度やブランドイメージが向上し、観光や移住を目的に訪れる人々が増えることが予想される。これに伴い、地域内の飲食店や宿泊施設、交通機関なども充実し、地域経済の活性化にもつながる。



図 25 サテライトオフィスのメリット (著者作成)

第4節 提案④ 技能実習生支援【グローバルあいづっこ育成プロジェクト】

第2章現状分析より、会津若松における在留外国人の増加、利用可能な空き家の存在、そして介護人材の不足が明らかとなった。これらの要素を踏まえ、海外からの若者を積極的に介護者という立場で雇用し、空き家を住居として提供する取り組み「グローバルあいづっこ育成プロジェクト」を提案する。

ここで対象とする海外からの若者は、特に技能実習生である。日本で働きたいと考える外国人を募り、介護技術を習得する支援を行う。『令和4年度福島県外国人住民アンケート調査結果(2022)』では、「日本語を勉強する場が欲しい」という声や「日本人との交流会が少ないので増やしてほしい」という声が多くある。そこで、技能実習生には介護に関する教育だけでなく、日本語や日本のマナーを学ぶ機会も提供する必要がある。具体的には、会津大学の学生をチューターとして起用し、学習や生活に関する不安を相談できる環境を整えることが考えられる。介護職は人とコミュニケーションをとることが必須であり、外国人にとっては難しいものだと思う。しかし、介護職を行いながら日本語でのコミュニケーション能力を高めていくことで、より日本のコミュニティに入り込めやすくなると考える。

また、就職後もお互いの国の郷土料理を紹介し合ったり、伝統スポーツを行ったりする交流会を設けることで、会津若松市が技能実習生にとっての第二の故郷となり、「あいづっこ」として地域に根付くためのコミュニティづくりを支援する。具体的な提案として、会津若松の小学生と技能実習生との食の異文化交流会を開催することを挙げる。これは地域の小学生と技能実習生が自国の文化の象徴の一つである「食」を通じて、交流することで身近にグローバルを感じてもらいたいという思いが込められている。互いの食文化を教え合い、協力しながら作り、味わうことでコミュニケーションを活発にすることができるようになり、普段の生活においても気軽に挨拶などができるコミュニティへと成長する。他にもフリーマーケットなどを市で開催し、そこに技能実習生が自国の料理を出店することで地域住民との食を通じた交流ができる。これらのイベントを第3章第1節で提案した「愛×^{あい} ^{あい}あいづっこパーク」で実施してはどうかと考える。

さらに、技能実習生にとって暮らしやすくしていくために「会津若松^{ふらす}+」のアプリに食の項目を追加する。郷土料理のレシピを見ることができたり、住民が地域のおすすめの飲食店や感想をマップに記載できたりするグルメマップをアプリ経由で共有する。そしてこのアプリの使用をさらに活性化させるために、投稿やコメントを追加するにつれてポイントがたまり、他の飲食店で使うことができるようにする(図26)。

この取り組みにより、地域に馴染めないかもしれないという不安や住まい探しの手間を軽減することができ、移住のハードルが下がる。その後も、継続的な地元住民との交流の機会や比較的安い家賃で生活できる環境が整っているため、地域への定住を促進することが期待できる。

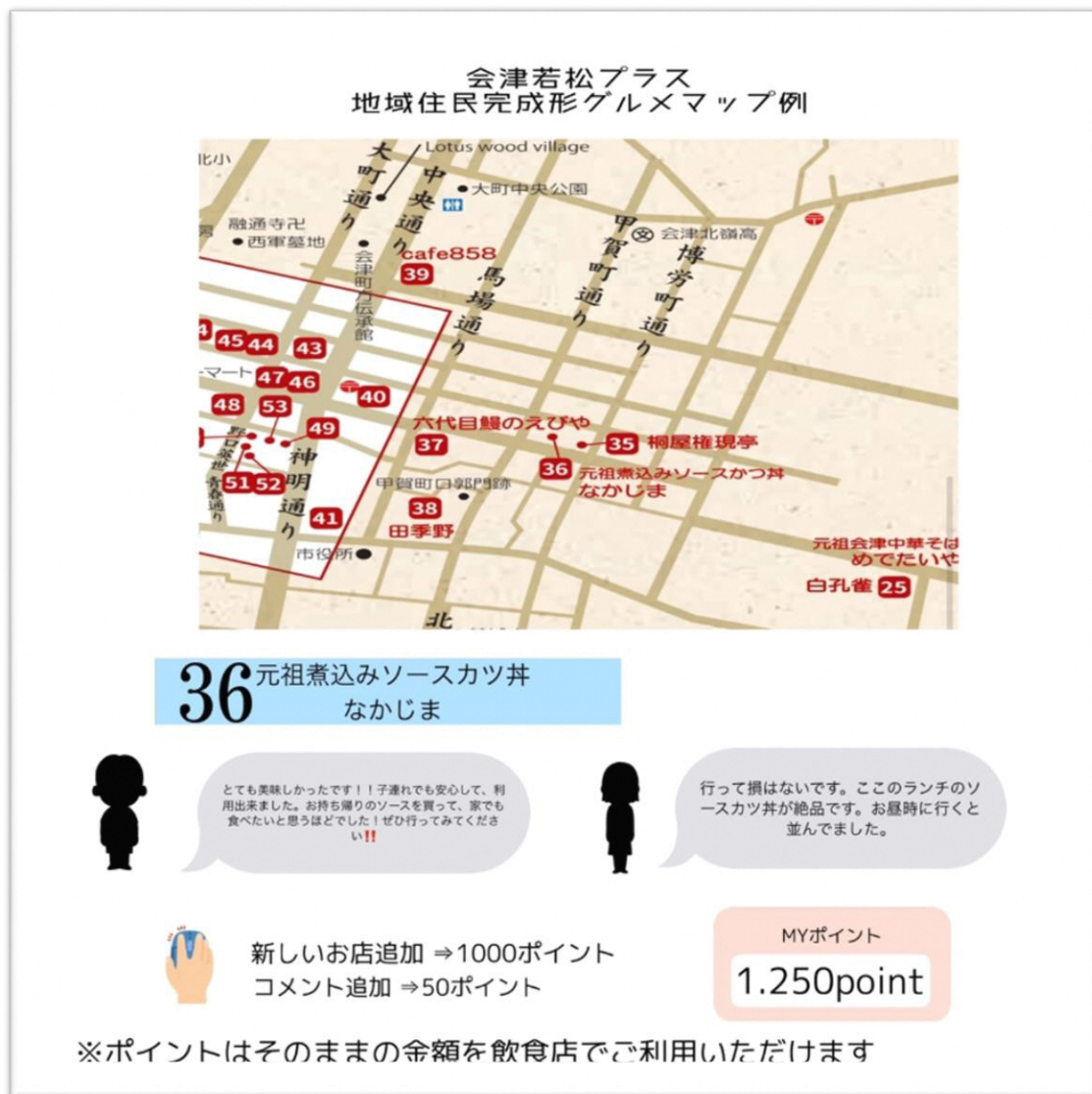


図 26 会津若松うまいものまっぷ（著者作成）

第4章 終わりに

本論文では、以下の表に示すように、第2章2節における介護人材の不足、第3節における在留外国人数の増加、第4節における空き家対策、第5節における子育て支援のさらなる充実、第7節におけるスマートシティ会津若松の認識普及といった課題に対する解決策を提案してきた。

これらの提案は「愛×^{あい}I^{あい} あいづっこ～誰もが住みやすい街に～」というテーマのもと、ICT技術を活用し、会津若松に住む多くのあいづっこにとって、より住みやすく愛のある街の実現を目指している。

これにより、会津若松の住環境が向上し、若者が定住する魅力的な街へと成長していくことが期待できる。

課題	解決策の提案
課題① 少子高齢化による介護人材の不足	海外からの労働者を募る
課題② 在留外国人の増加	学びの場の提供 地域住民との交流
課題③ 空き家の再利用	サテライトオフィスとしての活用 在留外国人へ住居としての活用
課題④ 子育て支援のさらなる充実	大型屋内施設の設置 IoT 家電の導入推進
課題⑤ スマートシティ会津若松の認識普及	会津若松+と連携できるアプリ・機能の追加

参考文献（オンライン上の資料はすべて 2024 年 10 月 18 日確認）

大羽昭仁（2018）『地域が稼ぐ観光』宣伝会議

神田誠司（2018）『神山進化論：人口減少を可能性に変えるまちづくり』学芸出版社

会津若松市企画調整課「会津若松市第 7 次総合計画」

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2016110400058/file_contents/detailed_edhition.pdf

会津若松市情報統計課「会津若松市の市勢統計データ人口・世帯数の推移」

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2016092600026/file_contents/02_01.pdf

会津若松市情報統計課「会津若松市の市勢統計データ年齢 5 歳階級別人口及び 3 区分別人口の推移」

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2016092600026/file_contents/02_0253.pdf

JMAP 地域情報医療システム（日本医師会）「福島県会津若松市」

<https://jmap.jp/cities/detail/city/7202>

会津若松市情報統計課「会津若松市の外国人住民数（令和 6 年 10 月 1 日現在）」

https://app.data4citizen.jp/04_foreignPopulation/

出入国在留管理庁「令和 5 年 6 月末現在における在留外国人数について」

[001403955.pdf](https://www.moj.go.jp/001403955.pdf) (moj.go.jp)

会津若松市危機管理課「第 2 期会津若松市空家等対策計画」

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2020031600022/file_contents/akiyakeiku2.pdf

会津若松市こども家庭課「令和 5 年度会津若松市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の報告」

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2019051000011/file_contents/kosodate.pdf

福島県障がい福祉課「第 5 次福島県障がい者計画」

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/511837.pdf>

会津若松市企画調整課「会津若松市令和 2 年度ユニバーサルデザインに関する意識調査報告書」

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2021081600024/file_contents/R2UDresearch_all.pdf

CuboAi「CuboAi Plus スマートベビーモニター」

<https://jp.getcubo.com/products/cubo-ai-plus?srsItd=AfmB0oqK3vfkSU7FugYKY01C9Qfd0EqtWC0pvjK7k39qwWqDa01H8fR>

会津若松市情報統計課「会津若松市の地域情報化に関するアンケート結果」

https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2019070100013/file_contents/kekka.pdf

株式会社大建設工務「設計実績 道の駅どんぶり館」

<https://daiken-sekkei.com/works/commerce/582>

西予市「【報告】西予ちぬやパーク情報」

https://www.city.seiyo.ehime.jp/kakuka/fukushi_jimusho/kosodate/kosodatekanrenshisetu/oshirase/14665.html

四国中央市就労支援ネットワーク「ともむぎ・ともカフェ」

<http://ssanw.com/place/tomo.html>

特定非営利活動法人今人倶楽部「投稿 いりこ酵母パン」

<https://imagine-npo.com/>

パラサポ WEB「砦公園にある未来の公園『みんなのひろば』全貌公開！【後編】」

<https://www.parasapo.tokyo/topics/26270>

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社「ユニバーサル自動販売機」

<https://www.ccbji.co.jp/business/installation/universal.php>

株式会社ミライロ「国内初！すべての人にやさしい新世代の自動ドア「ミライロドア」を開発
～障害のある方が安心して通行できる自動ドアの実現へ～」

<https://www.mirairo.co.jp/information/post-20240301>

福島県国際課「令和4年（2022年）度福島県外国人住民アンケート調査結果」

https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/life/659751_1854447_misc.pdf

会津若松観光ナビ「教育旅行用うまいものまっぷ」

[14 \(aizukanko.com\)](http://14.aizukanko.com)